

第 49 回種生物学シンポジウム プログラム

会期:2017 年 12 月 1 日(金)~12 月 3 日(日)

会場:すかつとランド九頭竜(福井県福井市天菅生町 3-10)

【スケジュール】

12 月 1 日(金)

- 13:00-18:00 各種委員会・幹事会
- 16:00-18:00 受付開始・ポスター貼付
- 18:00-19:00 **プレシンポジウム1** 大石善隆(福井県立大学)
「しゃがむと見える:コケ生物学への誘い」
- 19:00-20:00 夕食
- 20:00-21:00 **プレシンポジウム2** 平 修(福井県立大学)
「見えないものが見える:生態学におけるイメージングマス技術活用の可能性」
- 21:00- 交流会(ポスター会場にて)

12 月 2 日(土)

- 07:30-08:30 朝食
- 08:30-10:00 **ポスター発表(奇数コアタイム)**
- 10:00-11:30 **ポスター発表(偶数コアタイム)**
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-16:00 **ミニシンポジウム** 企画者:吉岡俊人(福井県立大学)
「人と係る野生植物、雑草」
- 16:00-16:20 写真撮影
- 16:20-17:30 **片岡奨励賞受賞講演** 渡邊謙太(沖縄工業高等専門学校)
「島の植物にみる二型花柱性を中心とした性表現の多様化」
- 17:30-18:30 種生物学会 2017 年度総会
- 18:30-21:00 懇親会(片岡奨励賞・PSB 論文賞・ポスター受賞者授賞式を含む)
- 21:00- 交流会(ポスター会場にて)

12 月 3 日(日)

- 07:30-08:30 朝食・ポスター撤去(8:30 までに)・チェックアウト(10:00 までに)
- 08:30-12:10 **企画シンポジウム** 企画者:山尾 僚(弘前大学)
「植物が感じる世界 -巧みな情報伝達システムが可能にする植物の柔軟な応答-」
- 12:10-13:10 昼食
- 13:10-15:30 **企画シンポジウム(つづき)**
- 15:45 解散
- 15:50 送迎バス出発
- 16:18 路線バス(無料)出発(フロントでバスチケットを受け取ってから、乗車してください)

ポスター発表

A-1～35 ポスター賞応募発表

B-36～59 一般発表

12月2日(土) 08:30-10:00 奇数コアタイム 10:00-11:30 偶数コアタイム

- A-1 花相称別に見る資源投資戦略 —花・胚珠・種子サイズから迫る
○望月潤、板垣智之、酒井聡樹(東北大・生命)
- A-2 イワシャジン近縁種群における花形質と花粉媒介者の分化
○船本大智(神大・農学研究科)
- A-3 ハワイフトモモにおける葉トライコームの適応的意義 —キジラミに対する被食防衛効果—
○甘田岳1、小野田雄介1、小林慧人1、伊津野彩子2、向井真那1、北山兼弘1(1京大・農、2森林総研)
- A-4 エンレイソウ属植物の種分化 —4倍体雑種カワエンレイソウは幻か?—
○相田大輔、大原雅(北大・院・環境科学)
- A-5 阿寒湖のマリモにおける3つの生育形と繁殖様式の変異 —遊走細胞形成に着目して
○梅川健人(北大・院・環境科学)、若菜勇(釧路市教委・マリモ研)、大原雅(北大・院・環境科学)
- A-6 帰化植物マツバウンランの生活史解析
○白井詩織・川窪伸光(岐阜大・応用生物)
- A-7 ヤブツバキの花粉媒介における鳥類の貢献度
○服部正道、川窪伸光(岐阜大・自然科学技術研究科)
- A-8 カメ類による種子散布の可能性を探る
○菅原早紀・川窪伸光(岐阜大学・応用生物科学部)
- A-9 マルハナバチ5種における形態サイズの標高傾度に沿った変化
○加藤禎基(信大院・理), 市野隆雄(信大・理, 信大・山岳)
- A-10 花の見つけやすさが、マルハナバチの報酬量と位置との連合学習に与える影響
○辻本翔平、石井 博(富大・理工学)
- A-11 マルハナバチタマセンチュウによるマルハナバチ女王の移動分散抑制の証拠
○久保田銀河(富大・理工学教育部)
- A-12 ハクサンカメバヒキオコシの葉形を介した対オトシブミ産卵防衛の検討
○樋口裕美子・川北篤(京大・生態研)
- A-13 アカメガシワの成長と化学・物理・生物的防御形質の時空間的变化
○後藤可南子1・山尾僚2・川窪伸光1(1: 岐阜大・自然科学技術研究科, 2: 弘前大・農学生命科学部)
- A-14 キツリフネにおける遺伝的・生態的に分化した3型の発見
○三原龍太郎・篠原義典(信大院・理工)・市野隆雄(信大・理、山岳研)
- A-15 さわると素早く閉じる花の発見—対植食者防御の新しい戦略?
○田川一希1、渡邊幹男2、矢原徹一1(1九大・理、2 愛知教育大・教育)
- A-16 ゴマシジミの捕食に対するナガボノシロワレモコウの繁殖補償戦略
○内田葉子、大原雅(北大・院・環境科学)
- A-17 形態的に酷似したウラギンヒョウモン属2種における共存、交雑、遺伝分化
○濱本健汰(信大院・理), 伊藤建夫(信大院・総合工学), 北原曜(信大・農), 市野隆雄(信大・理, 信大・山岳)

- A-18 絶滅危惧蝶類における遺伝的多様性・構造の時間的変化を標本DNAから探る
○中浜直之(東京大・総合文化)、井鷲裕司(京都大・農)
- A-19 高速度撮影を用いた身近なチョウ類の飛行解析
○佐藤佑哉、川窪伸光(岐阜大・院・応用生物)
- A-20 花粉分析によるヒメウラナミジャノメの訪花植物の同定
○南木悠、寺井洋平、木下充代(総研大)
- A-21 植物の競争環境に応じた表現型可塑性に着目した植食性昆虫の共存機構の解明：
エゾノギシギシとハムシ2種を用いた検証
○大崎晴菜、山尾僚(弘前大・農生)
- A-22 サラシナショウマの3送粉型における繁殖様式の分化 -異なる送粉者環境に対する適応!?-
○田路翼(信大・院)、石本夏海、市野隆雄(信大・生物)
- A-23 日本産短日性アオウキクサにおける花成限界日長と概日リズム周期の相関
○村中智明(京大・生態研)、工藤洋(京大・生態研)、小山時隆(京大・理・植物)
- A-24 コチャルメルソウの花序構造が送粉者の行動と繁殖成功に与える影響
○勝原光希(神戸大)、北村俊平(石川県大)、石井博(富山大)、中田兼介(京都女子大)、丑丸敦史(神戸大)
- A-25 花でアザミウマは何をしているだろう？
○塚原一颯・土田浩治・川窪伸光(岐阜大・自然科学技術研究科)
- A-26 キバナアキギリの花冠における赤斑の地理的変異
○神原昭真1・藤井伸二2・川窪伸光1 (1:岐阜大・応用生物, 2:人環大・人間環境)
- A-27 滑る花卉: 花卉表面ワックスは盗蜜者排除機構として機能するか？
○武田和也、川北篤(京大・生態研)
- A-28 チガヤにおける種内F1雑種の劇的な開花期シフトによる生殖隔離メカニズム
○野村康之、下野嘉子、水野信之(京大・農)、佐藤和広(岡山大・植物研)、富永達(京大・農)
- A-29 日本列島における落葉広葉樹の展葉フェノロジーの緯度勾配
-シミュレーションモデルとデータ同化による予測-
○渡部俊太郎(京大・フィールド研)、池田成貴(京大・院・農)、伊勢武史(京大・フィールド研/JSTさきがけ)
- A-30 ニューカレドニアで適応放散したシソ科Oxera属植物のゲノムワイドSNP分析
○藤田琴実(東北大・農)、満行知花(九州大・理)、綱本良啓(東北大・農)、井鷲裕司(京都大・農)、
Gildas Gâteblé (Institut Agronomique Néo-Calédonia)、陶山佳久(東北大・農)
- A-31 雄性両全性同株植物ケツユクサにおける雄花生産の季節変化とその要因
○邑上夏菜、勝原光希、丑丸敦史(神戸大・人間発達環境)
- A-32 簡易撮影による調査地俯瞰写真を用いた多年生草本ハクサンハタザオの個体群調査
○湯本原樹、杉阪次郎、工藤洋(京都大・生態研)
- A-33 野生イネの繁殖に必須の種子脱粒性に関わる遺伝子座の同定
○辻村雄紀、Than Myint Htun、沼口孝司、高間菜摘、杉山昇平、石井尊生、石川亮(神戸大・院・農)
- A-34 個体群動態調査によるマルバアメリカアサガオの圃場への侵入経路の解明
○井原希、小林浩幸(農研機構・中央農研)
- A-35 ササ類の種子食性昆虫相の解明
○上山芝穂、坂田ゆず(秋田県立大・生物資源)

- B-36 **スズタケの種子散布前の種子食害率：開花規模の異なる集団間の比較**
○坂田ゆず、上山芝穂、蒔田明史(秋田県立大・生物資源)
- B-37 **野外栽培したシロイヌナズナの遺伝子発現からみた食害応答の恒常性と可塑性**
○佐藤安弘(龍谷大・さががけ)、手塚あゆみ、鹿島誠(龍谷大・農)、出口亜由美(千葉大・園芸)、清水(稲継)理恵、山崎美紗子、清水健太郎(チューリッヒ大IEU)、永野惇(龍谷大・農)
- B-38 **市民が撮影した写真を用いたマルハナバチの分布拡大・縮小の推定**
○大野ゆかり(東北大・生命科学)、横山潤(山形大・理学、山形大・創生研)、中静透(東北大・生命科学、地球研)、河田雅圭(東北大・生命科学)
- B-39 **ハクサンハタザオにおける葉面撥水性の遺伝的集団分化**
○工藤洋、Biva Aryal、本庄三恵(京大・生態研)・篠原渉(香川大・教育)
- B-40 **一回繁殖型多年生草本オオウバユリの集団間の遺伝的多様性の違いと繁殖様式の関係**
○大嶋希美、早船琢磨、大原雅(北大・院・環境科学)
- B-41 **MIG-seq法によって明らかになった2倍体、倍数体由来タンポポの種間分化**
○満行知花(九大・理)、陶山佳久(東北大・農)
- B-42 **MIG-seq分析によるキタダケソウ属3種の種識別と遺伝的集団構造解析**
○小沼拓矢、綱本良啓(東北大・農)、阿部晴恵(新潟大・農)、中村 剛(北大・FSC植物園)、陶山佳久(東北大・農)
- B-43 **Chemical Communication in Trees-樹木の共通語：青葉アルコール**
○渡邊定元(Φ森林環境研究所)
- B-44 **針葉樹は近赤外放射を何故吸収するのか？**
○久米篤(九大・農院)
- B-45 **日本におけるキスゲ属の遺伝的集団構造**
○廣田峻(東北大・農)、三木望(九州大・システム生命)、陶山佳久(東北大・農)
- B-46 **希少樹種クロボウモドキの実生のハビタット選好性と果実の散布制限**
○古本良(西表島在住)、指村奈穂子(山梨県森林総研)、横川昌史(大阪市立自然史博物館)、内貴章世(琉球大)
- B-47 **コムカンソウ属におけるタマバエ媒の多回起源**
○川北篤・望月昂(京大・生態研)・加藤真(京大・人間環境)
- B-48 **ツチアケビの種子は哺乳類にも運ばれる？**
○山岸洋貴、山尾僚(弘前大)、末次健司(神戸大)
- B-49 **一斉枯死後のチシマザサ個体群の長期動態：クローン成長とバイオマス回復への寄与**
○富松裕・金子悠一郎・谷口稜太郎・大矢陽太(山形大)・工藤恵梨(秋田県立大)・松尾歩・陶山佳久(東北大)・蒔田明史(秋田県立大)
- B-50 **市民調査で明らかになった日本の里山の生物多様性の10年間の変化
～モニタリングサイト1000里地調査の成果と今後に向けて～**
○後藤 かな1、藤田 卓1、石濱 史子2、竹中 明夫2、高川 晋一1、朱宮 文晴1
(1日本自然保護協会, 2国立環境研究所)
- B-51 **同所的に生育する近縁植物2種間の生殖隔離と集団間の種子生産比較**
○中田大暁・堂園いくみ(学芸大・院・環境科学)
- B-52 **ススキ属植物の倍数性進化にともなう気孔細胞の形状変化**
○西脇亜也、黒木健吾(宮崎大・農)

- B-53 野外におけるシロイヌナズナの同調現象に関する研究／生育終了因子の単離と同定
○嘉美千歳、工藤洋(京大・生態研)
- B-54 花蜜酵母は寄生者か？—花蜜酵母の存在が植物の種子生産に与える影響—
○川野辺悠馬、酒井聡樹(東北大・理)
- B-55 希少樹種クロボウモドキの個体群構造と群集構造および生育環境
○指村奈穂子(山梨森林研)、池田明彦(品川区役所)、大谷雅人・澤田佳宏(兵庫県大)、
内貴章世(琉球大)、古本良(西表島民)、横川昌史(大阪自然史博)
- B-56 いびつな「果実」をつくる送粉者は宿主カンコノキの種子生産にほぼ貢献していない
○古川沙央里、川北篤(京大・生態研)
- B-57 The pollen grain in apomictic *Taraxacum* is a tiny defense mechanism against florivory
○呉 馥宇、矢原 徹一(九大・シス生)
- B-58 日本産チャルメルソウ属を送粉するキノコバエ類の生活史・生物学的実態の解明
○奥山雄大(科博・植物園)、Jostein Kjærandsen(トロムソ大学博物館)、岡本朋子(岐阜大)、加藤真(京大・人環)
- B-59 一斉開花は盗蜜率を緩和するか？ 6年周期植物コダチスズムシソウにおける検証
○柿嶋聡(科博・植物)、鈴木俊貴(京大・生態研)